

1 目指す学校			
(1)教育目標 「知性を高め、教養を深める」 「品性を養い、感性を磨く」 「自ら判断し挑戦する精神を高める」	(2)育成する生徒像 【自主自律】【文武両道】の精神の下、6年間一貫した探究活動を中心としたカリキュラムを通じて、富士山の裾野のような幅広い教養と高度な理数的解決力を身に付けさせることで課題解決力を育成し、この課題解決力を活用して、新しい価値観と既存の価値観を調和させ、社会の課題を解決するために自己の限界(高嶺)に挑戦できる人間「富士山型の人間」を育成する。	(3)目指す学校 ○中高一貫教育校としての使命を全うする学校経営 ○富士の教育活動に積極的に取り組む中で、富士生としての意識を高め、他を思いやり、切磋琢磨する生徒 ○プロ集団として授業力等の能力を向上し続け、協働する教職員	
2 中期目標と方策			
情報技術の革新的な進化が社会の在り方に改革をもたらし、それに対応するため学習指導要領の改訂や高大接続改革等により学びの質的転換が図られようとしている。また、成人年齢の引き下げにより、生徒は成人としての社会的自立が求められる。次代を担う社会的に自立した人間の育成、生徒一人一人の能力を最大限伸ばす学校づくりの推進、質の高い教育を支えるための環境整備という都立高校改革推進計画新実施計画の目標に基づき令和4年度の目標を示す。	(1)目標 ア SSHとして課題研究と他の全ての教科の関連をもたせたカリキュラムや、高度な理数教育を推進する。 イ 中高一貫教育校の教育課程上の特例を生かした、6年間一貫通貫したカリキュラムを実施する。 ウ 生徒一人一人の能力を最大限に伸ばさせるため、知徳体のバランスの取れた教育活動を展開する。	(2)方策 ○「SSH校」として、全ての教科で探究活動を教育内容に取り入れた課題研究と横断的なカリキュラムを推進し、中高一貫校の特例を生かした質の高い教育内容や高大連携事業による高度な理数教育カリキュラムの維持、推進 ○「Global Education Network 20」としての指定校の教育活動を発展させた特色ある教育活動の策定 ○6年間一貫通貫した教育課程のカリキュラムマネジメント ○道徳教育を中核とした心を育てる教育の充実 ○「Sport-Science Promotion Club」指定校、「文化部推進校」としての特別活動を発展させた心と身体を鍛える教育活動の充実	
領域	重点目標と方策		数値目標に対する成果と課題
ア 学習指導	目標	6年間、一貫通貫した教育課程及びSSH事業認定を目指した教育内容の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自学自習に関する肯定的割合 62% 目標には達しなかった。自学自習が定着していない生徒がまだ見られる。 ・ 教員の富士未来学へ協力 100% 授業力向上研修(講師:溝上慎一氏、松本真哉氏、後藤顕一氏)を3回、課題研究の指導力向上を目指す富士未来学研修を月1回、富士未来学推進委員会を41回実施した。 ・ 授業におけるICT活用量 100% コロナ禍の中、生徒の学びの補償への対応として、Teamsを活用したオンラインによる授業、Teams等を活用した自宅学習支援を年間通して実施した。
	方策	○SSH事業を中心とした理数カリキュラムの推進 ○6年間の教育課程編成及び指導計画策定とシラバス作成 ○学習評価の在り方についての外部講師の招請 ○学力保障のための支援体制づくり	
イ 指導生活	目標	自主自律の精神の下、生活規律のある生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶運動、ボランティア活動参加ともに、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対応のため、実施していない。 ・ 7時40分に登校できる時差登校を年間通して実施し、8時25分登校を実施しなかった。 ・ 定められた登校時刻に対して怠惰な遅刻者をゼロとすることはできていない。
	方策	○挨拶し、声を掛け合える環境づくり ○時間を大切に行動選択の励行 ○安全行動(自転車運転ヘルメット着用等)の推進 ○ボランティア活動への積極的参加 ○異学年交流による人材育成	
ウ 指導進路	目標	より高き進路希望への挑戦を支援する体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入学共通テストフル型受験率 60%以上 ・ 大学入学共通テスト 得点率91%以上 3人 ・ 大学入学共通テスト フル型受験平均得点率 70%
	方策	○国立大学を目指す環境づくり ○根拠となるデータ分析による生徒の意欲喚起 ○将来を見据えた、高い進路目標設定への支援	
エ 特別活動	目標	文武両道の精神で、何事にも挑戦する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理数に関する国際オリンピックへの大会での受賞はなかった。 ・ 東京都地区予選である物理チャレンジ88名、化学グランプリ13名、日本生物学オリンピック126名、日本地学オリンピック3名、日本情報オリンピック11名と参加生徒は科学系部活動である探究部だけでなく全校へ波及した。日本生物教育学会107回全国大会中高生ポスター発表会で優秀賞を受賞した。 ・ 運動部活動全国大会出場は4人(陸上競技部3人・なぎなた1人)、関東大会出場は24人(剣道12人・陸上競技10人・なぎなた2人)であった。
	方策	○ホームルーム活動、生徒会活動のより一層の活性化 ○学校行事への積極的参加 ○部活動等と学習習慣を両立するメリハリのある生活習慣	
オ づくり健康	目標	心身の健康と体力増進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中野区消防署や中野区役所と連携した高校1学年を対象とした防災訓練を8時間実施したその中で大学職員を姉妹して救急救命法を2時間実施した。中野警察署から講師を招き、セーフティ教室で交通安全についても啓発を図った。 ・ いじめ防止及び体罰防止研修を全職員対象に2回実施した。生徒のいじめや体罰の認識はゼロであった。
	方策	○安全教育に関する外部機関を活用した講習等の実施 ○いじめ防止に関する生徒への指導や体罰防止研修の実施	
カ 活動広報	目標	富士の魅力発信の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの更新回数 900回 本校の特色や学校行事等、生徒の学校での様子を定期的に発信することができた。全職員によるホームページ更新の組織体制は構築できている。
	方策	○ホームページを魅力あるものとし、アクセス数の増加を目指す ○小学生対象の説明会等の活性化、応募倍率向上を目指す広報	
キ 組織体制	目標	分掌の横の連携強化と会議の効率化による働き方改革の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 80時間以上残業者月平均4人 企画調整会議をオンライン配信し、配布文書データも全てフォルダへ保存することで、ペーパーレスと業務の効率化と情報共有の円滑化を図った。各分掌・学年での情報伝達と会議記録を取ることができた。
	方策	○情報共有の方法の開発 ○会議内容や構成メンバーの見直し	